



生駒市立鹿ノ台小学校

鹿小だより



鹿ノ台小
ホームページ

令和 6年 10月 15日

第 15 号

← 一歩ふみ出し全力をつくして 勝利に向かってつっぱしれ! →

今年の運動会のスローガンです。

スローガンは、児童会活動の中で子どもたちの意見をまとめて決めています。

児童会の呼びかけで、まず学級で案をつくりました。どんな運動会にしたいのか話し合い、大切にしたい言葉や思いを入れて作った学級の案です。それを9月の代表委員会に持ち寄りました。代表委員会を行った教室のホワイトボードに各



国際交流室前の黒板 日本語指導を受けている子どもたちがかきました。

学級の案が書かれた短冊を貼り出し、それを見ながら、この言葉がいい、あのフレーズは入れたいなど

とクラス代表が意見を出し合いました。

こうして出された意見と各クラスの案を参考に、児童会だけでもう一度話し合い、1つの文にしてまとめたのが今年のスローガンです。

「あきらめない」「負けても前向き」「立ち向かえ」「突き進め」「突っぱしれ」「本気を出して」「全力しぼりきって」「気合」などのフレーズが、学級案に多く見られました。また、「一歩ふみだせ」は代表委員会で最も推す意見の

多いフレーズでした。

今年のスローガンには、

“自分たちが持っているエ



ネルギーや気力をからからになるまで絞り切る気持ちで、苦手なことにもあきらめず前を向いて突き進みたい。そのためには、失敗を恐れず一歩踏み出すことが大切だ、との思いがこもっています。

いよいよ運動会の日が近づいてきました。10月に入って学年ごと、全校での運動会練習が本格的になってきました。熱中症を心配していると秋の長雨。予定通りには練習が進みませんが、どの学年も本番に向けて練習を続けています。16日には予行練習も予定しています。



団体競技の練習 4年生

のびのび班で応援練習

9月中旬になると、応援団を結成し各色活動を開始します。どんな応援にしたいか、振付はどうするのかアイデアを出し合い準備を進めてきました。活動ができるのは、毎日昼休みだけという限られた時間の中で、応援団に選ばれた子どもたち、担当教員は毎日頑張っています。



応援団作製の動画を見るのびのび班の子ども達



6年生が中心となって動きの練習

例年、応援歌の歌声のみを録音し、給食時間に流していましたが、今年は応援歌やコールのお手本動画を作成してくれました。その動画が早速、役に立ちました。

雨のため、外での応援練習の中止が続いたので、10月8日（火）、予定を変更して鹿小タイムにのびのび班（縦割り班）ごとに応援の練習をすることにしました。応援団児童で撮影した動画を見ながら、班ごとに応援歌やその振付の練習をしたのです。応援団員がいない班もありますが、6年生が中心となって動画を見ながら振りの動きを説明してくれました。

のびのび班での練習の様子を見てみると、みんな実に楽しそうでした。全校が一斉に集まって取り組む練習よりも身近で動きを見ながら一緒に取り組めるので、分かりやすかったのかもしれない。応援団ではない6年生の子どもたちにとっても、のびのび班のリーダーとして応援練習に主体となって携わるよい機会となりました。のびのび班の教室を出るとき、「応援歌、もう覚えた！」と得意げに話す2年生に出会いました。「楽しかった」「応援が楽しみ」と感想を述べる子もいました。みんなで作り上げる応援合戦、チームをひとつにする応援にしていきたいですね。



6年生「みんなで楽しく過ごすために」

のびのび班での応援練習のあとの一時間目、たまたまグループでの話し合いをしているところを見かけました。目的や条件に感じて話し合う国語の学習です。教科書を見ると、「6年生は、…中心となって活動を行うことがありますね。どのような活動を行えば、…みんなが楽しめるか、…話し合ってみましょう」と書かれています。

あるグループから、「運動会を盛り上げるためには、まず応援団が大きな声を出した方がいいと思う」と主張する声が聞こえてきました。すると、「みんなが声を出せばいいのに、どうして応援団からなの？」と質問が出ます。「周りの人が大声を出していなかったら、声を出せなくなる人もいるかもしれない。そんな人のために

い。そんな人のために、まず応援団が大きな声を出せば、出しやすくなる。応援団がまず大きな声を出せば、いい応援合戦になるし、みんな楽しく過ごせると思う」と回答していました。運動会前に大切な話し合いです。

話し合いをする子どもたち

